

### 多頭飼育問題および飼育困難となった ペットへの対応体制について

みんなて未来をつくる会  
丸山 純平



**問** 高齢独居世帯や生活に課題を抱える世帯において、ペットの多頭飼育や飼育困難が深刻化する事例が全国的に課題となっている。本市における支援を要する世帯での飼育状況や兆候を把握する仕組みはあるのか。また、事案発生時の県や関係機関との情報共有・役割分担は。

**答** 飼育状況を把握する仕組みは設けていないが、支援を要する世帯の状況確認の中で把握している。生活保護世帯はケースワーカーが把握しており、2月末時点で289世帯のうち9世帯がペットを飼育している。今後も相談対応の中で状況を把握し、支援につなげる。また、関係機関との情報共有や役割分担について明確な定めはないが、必要に応じて連携し個別に対応している。



### 制度のスキマの支援について

みんなて未来をつくる会  
益田 大輔



**問** 病気や障がい、介護、子育てがひとつの家庭に重なると、家族の負担が増え、日常生活に影響が出る。その結果、生活が苦しくなり、孤立も深まるが、こうした複合的困難を抱える世帯の把握や支援について市の考えは。また、制度の枠に収まらないグレーゾーンの支援について市の考えは。

**答** 困難が複雑化していることは理解している。分野ごとの縦割りを超え、支え合う仕組みが必要である。このような課題に対処するため、令和8年度から「重層的支援体制整備事業」を開始し、地域、事業者、行政が一体となった支援体制を構築していく。



### マイナ救急について市民 意識の醸成を!

高山市議会公明党  
山腰 恵一



**問** マイナ救急では、「マイナンバーカードの保険証利用登録情報」を活用することで、受診歴や薬剤情報が把握でき、より迅速で適切な処置につながる。市は令和7年10月1日から実証事業を実施し、令和8年4月1日からの本格運用に向かっているが、これまでの実績や今後の推進は。

**答** 令和7年12月までの実績は143件で、救急搬送件数の約13%である。マイナンバーカード普及率は83.9%であるが、マイナ保険証を登録されていない方が一定数いる。今後救急医療週間をはじめ、様々な場で関係機関と協力し、啓発活動に取り組む。



### 屋内型のこどもの遊び場 整備の方針は

高山市議会公明党  
中 箴 博 之



**問** 猛暑の夏や冬の積雪時にも安心してこどもを遊ばせることができ、親も年寄りも一緒に楽しみくつろげるスペースとして屋内型の施設整備を望む声は多いが市の方針は。

**答** これまでモンデウスパークの活用や木遊館の運営支援、赤保木公園と市民プールの一体的整備などに取り組んできたが、計画中の駅西地区複合・多機能施設に屋内型のこどもの遊び場を整備することとしている。令和8年度からは地域のバランスも考慮して、つどいの広場の拠点整備を計画的に進めることとしている。

